

DXH高大連携概要



愛知産業大学
経営学部長
石橋 豊

DXハイスクール制度と高大連携の意義

■ DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）制度とは？

- 高校におけるDX人材育成のモデル校制度（文部科学省）
- AI・データ活用・PBL型探究学習を推進
- 教員研修・ICT環境整備・外部連携（大学や企業、地域団体、自治体など）が支援対象

■ なぜ「高大連携」か？

- 専門的・実践的な学びの深化
- 生徒のキャリア形成支援
- 教員同士の協働による探究の質の向上

愛知産業大学の連携体制

■ 大学の強みと役割

- 情報系分野に特化した教育資源（2027年度情報学部設置予定）
- AI・データサイエンス・ものづくり・VR・メタバース・eスポーツ・ゲームなど多様なテーマ
- 高校との接点を重視した専任チームによる対応

■ 高校との接点づくり

- 出前授業・体験授業
- 探究テーマ支援
- 探究発表会へのフィードバック

愛知産業大学の協定校

■ 協定校（23校）（順不同）

- 小牧工科、半田工科、名古屋市立工芸、日進、愛知総合工科、豊橋工科、岡崎工科、岡崎商業、豊川工科、刈谷工科、碧南工科、三谷水産、
- 一宮工科、愛西工科、一宮起工科、浜松修学舎、名古屋工業、名古屋工科、蒲郡、幸田、豊田工科、岡崎東、一色

■ 協議中：1校



DXHに採択された小牧工科
高校、豊川工科高校との高
大連携協定の締結式

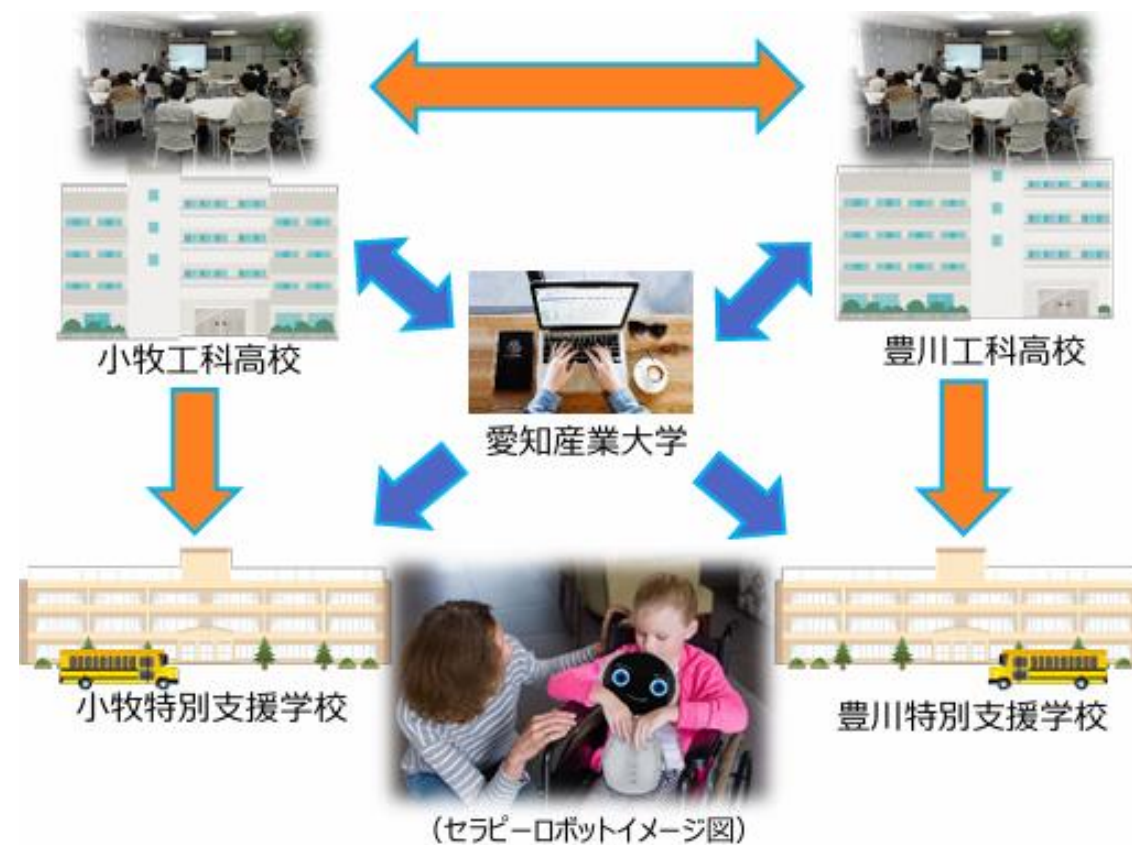
高校との連携事例（1/2）

■ 実践①：体験型学習支援（WEB授業＋実体験）

→ 生成AIやロボットを使い、探究意欲とICTスキルを同時に育成

- 対象校：小牧工科、豊川工科、小牧特別支援、豊川特別支援

- 内容：生成AIアプリ、セラピーロボット、WEB授業＋体験



高校との連携実例（2/2）

■ 実践②：アプリ制作支援

- チャットボットを活用し、自ら課題を発見・解決するアプリ開発力を養う
- 対象校：小牧工科、豊川工科
- 内容：チャットボットを活用したオリジナルアプリの開発



（仮想店舗イメージ図）

■ 実践③：BIM演習支援（建築・空間設計）

- 最新の建築設計技術BIMを活用し、設計から施工までのプロセスを理解
- 対象校：豊橋工科、碧南工科、愛西工科
- 内容：BIM学習のWEB授業＋大学での実地演習



（BIMデザインイメージ図）

（WEB授業風景イメージ）



想定される成果と課題

■ 想定される成果

- 生徒の探究活動の質が向上
- 「大学で学ぶ意味」への気づき
- 教員間の信頼関係が生まれ、継続的連携へ

■ 課題

- 高校・大学双方における連携の制度化
- 今後は企業も巻き込んだ三者連携へ
- 予算や人的資源の確保

まとめと橋渡し

■ 今後に向けて

- 高校・大学・企業がつながる学びの創出へ
- 探究・PBL・情報教育の場での共創がカギ
- DXHがその「ハブ」の役割

 本日はこのあと、現場からの事例報告が続きます。